

日本語日本文学科

■アドミッション・ポリシー

日本語日本文学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、次のような人物を求める。

知識・技能	●日本語・日本文学および日本文化に関して理解を深めたい人。 ●高等学校卒業程度の国語に関する知識を備えている人。
思考力・判断力・表現力等の能力	●日本語・日本文学および日本文化の歴史的な変遷を視野に入れ、多様な観点から物事を捉えようとする人。 ●物事を論理的に分析し、適切に表現しようとする人。
主体性・多様性・協働性	●知的好奇心を持ち、自ら真理を追究しようとする人。 ●日本文学や古典芸能に関心を持つとともに、それらを取り巻く様々な問題を解決しようとする人。 ●日本語を用いたコミュニケーションの形態に精通し、対話力を活かした分野で働こうとする人。 ●外国人のための日本語教育に主体的に取り組み、国際交流に尽力しようとする人。

選考方法

自己推薦書



学科独自課題

小論文
または
プレゼンテーション



面接

学科独自課題

小論文

日本語・日本文学に関する文章を読み、300字程度で要約し、自分の意見も合わせて合計1000字程度の文章を書いてください。

プレゼンテーション

次のテーマのうち1つ以上を取りあげて話してください。

- ・本学の日本語日本文学科で学びたいこと
 - ・卒業論文のテーマにしたいと思っていること
 - ・大学に入って取り組みたいこと
- (発表約10分、質疑応答約10分)

[プレゼンテーションについて]

・原稿を読み上げるだけのプレゼンテーションは不可とする。メモ程度のものを見ながら話すのは構わない。

[プレゼンテーション資料について]

- ・プレゼンテーションの補助として、視覚的提示物(図表、絵、写真など)を使ってもよい。ただし、紙媒体で、A3判以上の大きさで作成すること。
- ・プレゼンテーションの補助として、A4判用紙1枚以内のハンドアウト資料(プリント、配付物)を試験監督者に配布してもよい。配布する場合は3部持参し、試験の開始時に試験監督者に渡す。ただし、ハンドアウト資料の内容は、自分で作成した文、図表、絵、写真などに限る。

評価ポイント

自己推薦書から、小論文、プレゼンテーション、面接のすべてに共通した指標を用います。

- ①場面(対面・筆記)に即した日本語運用能力
- ②論理的な構成力
- ③自己表現力
- ④本学の日本語日本文学科で学びたいという意欲